

挑戦している **人** を紹介する広報紙

# 都リハ To-Reha Challenge! vol.3

## チャレンジ!



園芸係(OT)

都リハガーデン特集  
OT科園芸担当にインタビュー!



イリヨパン  
高度専門リハ担当リパンダ



## 『都リハガーデン』の仕掛け人

### リハビリテーション部 作業療法士 主任 杉田 悠一

当院正面玄関周辺には、プランターや鉢植えなどが並び、季節の花々、茄子・大葉・ゴーヤなどの野菜が植えられています。

今では入院患者さんも水やりや植替えなどに携わる、小さな植物園でもあり農園でもあるこの試みは、一人の職員により始められました。

そんな『都リハガーデン』の仕掛け人、杉田悠一作業療法士にお話を伺いました。



## インタビュー



『都リハの聞き上手』  
医療福祉連携室相談科  
医療相談員  
主査 西原 大助

Q 今までの活動で、  
苦勞したことや失敗談などがあったら教えてください。

水のやり忘れで、植物を半分くらい枯らしてしまっただけがありました……。

立ち上げから4年目に一般病棟から回復期病棟に異動になり、園芸に興味のある患者さんを担当する機会が減り、新しい病棟に慣れるまでもばたばたして、園芸活動が疎かになってしまい……。自分は園芸活動をやる資格がないのではないかと落ち込んだ事もありました。

いつの間にか1人では手が回らない状態になってしまっていた事に気づき、作業療法科長に相談して係化しました。係で行う事により、水やりのスケジュールや園芸の会の企画、植える花の検討など、活動の幅も広がりました。



Q まず、当院で園芸を始めたきっかけをお話してください。

本物の花を患者さんと見たい、というのがきっかけで見切り発車ではありましたが始めさせていただきました。入職して二年目、今から五年前のことです。当時私は一般病棟に配属されており、園芸が好きな高齢者を担当することが多く、よく正面玄関での外気浴を訓練プログラムに入れていました。

当時も正面玄関前にはプランターが並んでいたのですが、その中身は全て造花でした。それを患者さんと一緒に見ても、なんとも味気ないというか、切ない気持ちになり……。これが本物の花だったらと思ったことから、小さな鉢植えを一つ造花のプランターの前に置きました。

様子を見ながら少しずつ鉢植えの数を増やしていくと、患者さんやスタッフの評判がよく、皆喜んでくれたので「これはいける!」と考え、プランターに造花ではなく土を入れて花を植えたいと事務室に相談しました。



Q 『都リハガーデン』を始めてみて、患者さんへの効果として、予想した事柄と異なる気づきを挙げるとしたらどんなことがありますか？

当初はこちらから一方的に提供するだけのものと考えていました。種や土を用意して、水をあげてもらおう。喜んでもらう。実際はそうではなく、患者さんから提供されることのほうが多いです。こうしたほうがいい、とアドバイスしてくださったり、教わったり。そのように「花を管理する」「スタッフに教える」という役割を患者さんが担っていて、その人らしさや経験を活かすことが自然とできているんです。

Q これまでどのような作物や植物を栽培されましたか？

植物は、パンジー、チューリップ、朝顔、ひまわり、コスモスなど。作物は、きゅうり、茄子、ピーマン、ゴーヤなど。係にしてからはひょうたんを作りたいという意見も出て栽培しました。ゴーヤなどの野菜は調理訓練で調理したりしています。

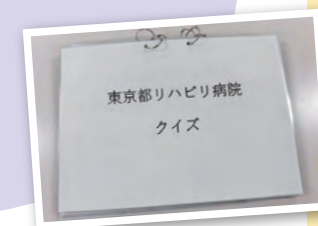


Q 患者さんの他に、職員の皆さんから反響はありましたか？

あげきれないほどありました。院長や看護部の師長からは、花壇の花がきれいだね、癒されるね、など何度も声をかけていただきました。野菜の成長を楽しみにしています、とも。清掃の方には、ハイビスカスの鉢をもっと皆が見える場所に置いたほうがいいと提案いただき、正面玄関に移動しました。地域リハ推進科長は、患者さん向けの植物にまつわる「おもしろクイズ」を作成して玄関に置いてくれました。

とあるPTさんには「大葉が大変なことになってるよ! 持ってっちゃうよ!」と摘んでもらったりとか。

Q それは大葉が欲しかっただけなのでは？  
(笑)



Q 『都リハガーデン』を続けてきて、リハビリ専門職として臨床への効果についてはどのように感じていますか？

大切にしていることは、①四季を感じる ②なじみがある ③活動に活かせる これら3つの要素がある植物を育てるということです。

病院は無機質な感じがして、季節を感じるのが難しい部分があると思うので、春はチューリップ、夏はひまわり、冬は葉牡丹とかシクラメンとか、季節感があり、誰もが知っている、わかりやすい植物を置くようにしています。

活動に活かせる、という点では、育てた野菜を使って調理をする、花を生け花や押し花にする、などの活動を通じて、達成感を感じてもらいたいという思いがあります。あとは、田植えとか、芋掘りとか、ゴーヤの収穫など、いろんな人が集まる機会を作り、他患やスタッフと関わりあうことで、集団のエネルギーが生じ、普段は見られない患者さんの顔を引き出すことも目的の一つです。



Q それらの情報は他のスタッフと共有されていますか？

担当のリハ職員とは、園芸活動に参加された患者さんはいつもどういう感じなのかを聞いたり、今日はこういう側面が見えたよね、といった話をしています。





## Q 杉田さんにとっての『都リハガーデン』とは？

自分の**好きなことが活かせる作業療法**の手段のひとつです。

普段は疼痛で離床を拒否している患者さんに、どうしてもバラの育て方を教えてほしいと依頼すると、文句を言いながらも離床して「バラにはバラ専用の栄養剤が必要なのよ」など、指示を沢山出してくださって、最後には笑顔になったり。意欲低下しており、言葉数も少ない患者さんが「植物は水を切らさなければ生きていける」と一言格言めいたことをおっしゃったり……

**予想を超えた反応が見られることが多々あります。**

園芸活動は、水をあげたり、花を摘んだり、肥料をあげたり“世話をする”

といった能動的な要素が多く含まれます。病院での患者さんの日常は、重度な方ほど排泄や入浴、服薬等ケアされる側のことが多く、申し訳なさを感じている方が多く見受けられます。園芸では“世話をしてあげる”といった**能動的な精神的立場、役割を持つことで内側から人のエネルギーを引き出せる**ように感じます。

園芸はそれらが活かせる活動で、とても魅力的に感じています。



## Q 今後の『都リハガーデン』と園芸活動に対する、 野望やチャレンジしたいことなどはありますか？

去年、今年とすでにチャレンジしている事なのですが、稲を植えても稲穂の実が生らない。去年も、何が悪かったんだろう、と振り返りをして、土をかき混ぜるのが弱かったから？ 水枯らしちゃった時があったのかな？ 肥料不足？……と色々考えているんですけど、**来年こそは、稲穂が実った姿を**皆さんにお見せしたいですね。

## Q ダッシュ村みたいですわね。

いやいや（笑）



チャレパン  
チャレンジする人を  
応援するリバンダ

## Q 最後に『都リハガーデン』

をやってみて、作業療法士としての感想をお願いします。

**感謝**しかないです。

都リハだからこそ、こうやって自由に園芸させてもらっている。職員の皆さん方が優しいし、関心を持ってもらえる。活動をしていると声を掛けてくださって、フィードバックしてくれる。それら一つ一つが**私のエネルギー**となって、**患者さんの力**にもなっていると思います。そういった環境に対して**感謝**しています。

また、園芸系のスタッフも、一人一人が**いろんな役割で活動**してくれているので、今の『都リハガーデン』があると思っています。

これからも『都リハガーデン』の活動を**温かい目で見守って**いただけると嬉しいです。

